

完了後の評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成21年度～平成25年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	とがち 十勝森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 とがちせいぶ 十勝西部森林管理署
完了後経過年数	4年	管 理 主 体	十勝西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の中央部から南東部に位置し、十勝総合振興局管内に属する1市5町2村に所在する国有林約140千haを対象としている。</p> <p>人工林面積は約11%にあたる約16千haで、そのうち間伐の対象となる林分が約8割近くとなっており、今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>本地域は本計画区の南西部に位置し、我が国を代表する清流である歴舟川、札内川等の中流部から上流部に国有林は位置している。日高山脈は、急峻な地形が多く、上部から稜線に至る地域に所在する国定公園や日高山脈森林生態系保護地域より下部の区域は、土砂の流出崩壊等の被害を防止のための山地保全の役割の発揮を第一とすることが期待されている。</p> <p>さらに、この地域は民有林も含め道内の主要な木材生産地帯であり、今後も木材の安定供給を通じ、地域産業の振興に寄与することが期待されている。</p> <p>また、各種用水の確保を目的とするダムの周辺及び上流の国有林は、水源涵養の役割を担うことが期待されている。</p> <p>一方、日高山脈襟裳国定公園に指定された地域及び日高山脈森林生態系保護地域が設定された地域については、豊富な森林生態系の維持・保存が期待されているほか、山岳、溪谷、森林景観、温泉等の観光資源に恵まれていることから、道東地方西部における観光地、登山やスキーなど森林を利用したレクリエーションや保健休養の場として活用されている地域である</p> <p>本事業では、これらの地域の期待に応えるとともに、地球温暖化防止等森林の有する多面的機能の発揮のために必要な、植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容： 森林整備 更新 面積 70 ha 保育 面積 3,836 ha 路網整備 開設 延長 15.7 km 改良 延長 0.8 km</p> <p>・総事業費 1,876,597 千円（税抜き 1,787,236 千円）</p>		
① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成30年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益又は総費用と、完了後の評価で算出した総便益又は総費用との差異については、切捨間伐から搬出間伐に移行したことによる大幅な事業量の増加や人件費単価の上昇及び林野庁における統一的な算定方法の変更によるものである。</p> <p>総 便 益 (B) 15,751,552 千円（平成20年度の評価時点： 5,312,671 千円※） 総 費 用 (C) 4,386,688 千円（平成20年度の評価時点： 383,127 千円※） 分析結果 (B/C) 3.59 （平成20年度の評価時点： 13.87 ※）</p> <p>※平成20年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。</p>		

<p>② 事業効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・更新・保育によって森林が整備されたことにより、水源涵養や山地保全、炭素の固定による地球温暖化防止等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。 ・開設及び改良によって林道が整備されたことにより、木材の搬出距離・経費の縮減及び木材搬出用トラックの通行量の増加に対応した路網整備を行ったことで効率的な木材生産が図られた。 ・林業事業者に対する計画的な事業の発注等を通じ、雇用の場を提供して、地域の社会経済に貢献した。
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された森林の林況は、継続して適切に管理されており、良好である。 ・整備された林道は、良好に維持・管理されている。
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備事業の実施により、水源涵養や山地保全などに応じた森林が形成され、それぞれの役割が果たされている。 ・周囲の森林と調和した適切な森林施業は自然景観の保持に役立ち、森林資源の充実のほかレクリエーション・保健休養等の保健文化機能を充実させている。
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>本地域の経済情勢は、大きく変動している部分は見られないが、地域特性を生かし、広大な十勝平野において、畑作や酪農といった農業が展開されている。また、寒暖2海流が交錯する好漁場を有し、沿岸・沖合漁業といった水産業も盛んである。</p> <p>本地域の人口は、年々減少傾向にある中で、そのうち林業就業者数は、平成17年度の479人から平成27年度には506人に増加しているものの、北海道内の傾向として他産業に比べ60歳以上の高齢者の割合が高く、今後増加する森林整備を担う人材が確保されているとは言い難い。</p> <p>こうした状況の中、効率的で生産性の高い高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が促進されており、さらには森林施業に資する林業専用道及び森林作業道の連結によって効果的な森林施業を推進する必要がある。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林の有する多面的機能を高度に発揮させるため、事業計画に基づいて着実に事業を実施することが必要である。</p> <p>さらに、丈夫で簡易な路網整備に取り組むとともに、伐採と造林の一貫作業や植付効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入を図り、低コストで効率的な作業システムの確立のほか、有用広葉樹の天然更新木を活用した針広混交林への誘導等多様な森林整備を行うことが重要であると考えている。</p> <p>なお、今般の事業実施に関する事業対象区域の地元意見は以下のとおりとなっている。</p> <p>(北海道)</p> <p>森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。今後とも道との一層の連携のもと、森林整備を推進していただきたい。</p> <p>(音更町)</p> <p>本町下士幌地区の防風林について、全体的に林齢も高くなってきていることから、今後も適切な更新等の施業を行っていただき、森林整備の継続を要望します。</p> <p>また、本町と芽室町にまたがる国見山はレク森として昭和52年に指定され、音更町はもとより芽室町や帯広市をはじめとした近隣住民の憩いの場として家族連れなどのハイキングや自然散策等に利用され長く親しまれてきたものと理解しております。</p> <p>しかし、近年は木の成長により展望台からの景色もほとんど見えないような状態となっており、間伐等の手入れも十分ではないため、一部コースを閉鎖し利用客も減少傾向にあると思われます。</p> <p>今後も自然観察教育林として利用者が快適に利用できるように森林整備の充実を要望します。</p>

おびひろ
(帯広市)

国有林は本市の水源地の上流部にあり、森林整備事業の実施により水源涵養機能など森林の持つ公益的機能の維持・増進を期待している。

今後も森林の持つ公益的機能が持続的に発揮できるよう適切な森林整備の実施をお願いしたい。

さらべつ
(更別村)

本村に存する国有林面積は広くありませんが、隣接する町村に広大な国有林があり、本村水源の上流部に位置していることから、その恩恵については広範に村内に影響があるものと考えており、適切に森林整備事業が実施されていることにつきまして十分に評価しているところであります。森林の持つ多面的機能については、とりわけ本村の基幹産業である農業や日常生活におきましても多大な影響があるものと考えられることから、今後も引き続き森林整備が着実に実施されるよう要望いたします。

しみず
(清水町)

本町の森林面積17,757haのうち、約64%を占める国有林において、森林整備だけでなく迅速な災害復旧に取り組まれたことは十分評価できるものである。

今後も、更なる森林整備が適切に行われることを期待する。

たいき
(大樹町)

国有林は町の水源地の上流部にあり、間伐を主体とした森林整備が実施されたことにより、森林の持つ多面的な機能の発揮と、良好な森林の形成がなされたことは高く評価できる。

今後も適切な森林整備の実施と、民有林事業者等の見本となるような管理をお願いするとともに、当町としては流木災害対策として、下流域の被害拡大を回避又はその程度を抑制することを基本とするスリットダムでの流木捕捉工対策を講じていただけるよう併せてお願いする。

なかさつない
(中札内村)

本村において、森林面積の大半を占める国有林の環境保全は重要であり、間伐を主体とした森林整備が実施されたことにより、森林の有する多面的機能が発揮されることを期待している。

今後も、適切な森林整備の実施を要望する。

ひろお
(広尾町)

森林整備事業により、森林の有する様々な機能の維持・促進がより図られたものと評価する。

また、本事業の着実な推進は、近年多発する異常気象による土砂流出等の防止にも繋がるため、今後の同事業の継続を期待する。

(芽室町)

町内の森林のうち、国有林の占める割合が高い本町において、森林整備が着実に実施されたことは十分に評価できるものであり、また、これにより森林の有する多面的機能の維持・促進が図られたものと評価する。

平成28年の台風により甚大な被害を受けた箇所については、路網も含めて今後も適切な復旧、維持・管理の継続をお願いしたい。

森林管理局事業評価
技術検討会の意見

本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認められる。

評価結果

- ・必要性 本地域は、大半が水源かん養保安林に指定されており、また、地域の基幹産業である農業や漁業に配慮した施策実施が求められている地域である。
また、急峻な地形もあることから、山地保全の役割が求められており、地球温暖化防止対策や木材の安定供給のほか、保健文化機能の維持等に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 効率性・ 有効性 | <p>事業採択時に比べ、B/Cは低減したものの、現地の地形・地質状況に適した工種及び作業仕様での路網の開設・改良によって森林整備実施箇所へのアクセスが向上した他、森林整備においても現地の状況に応じた更新・保育作業を効率的に行うことによりコストの増加を抑えており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>本事業の実施により、森林の有する多面的機能が発揮され、引き続きその効果が発現されるものと見込まれる。</p> <p>また、これらの直接的な効果のほか、地域の基幹産業である農業や漁業に対しても、山地保全や水質浄化等の機能の向上を通じてその振興に寄与しており、事業の有効性が認められる。</p> |
|---|--|

便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

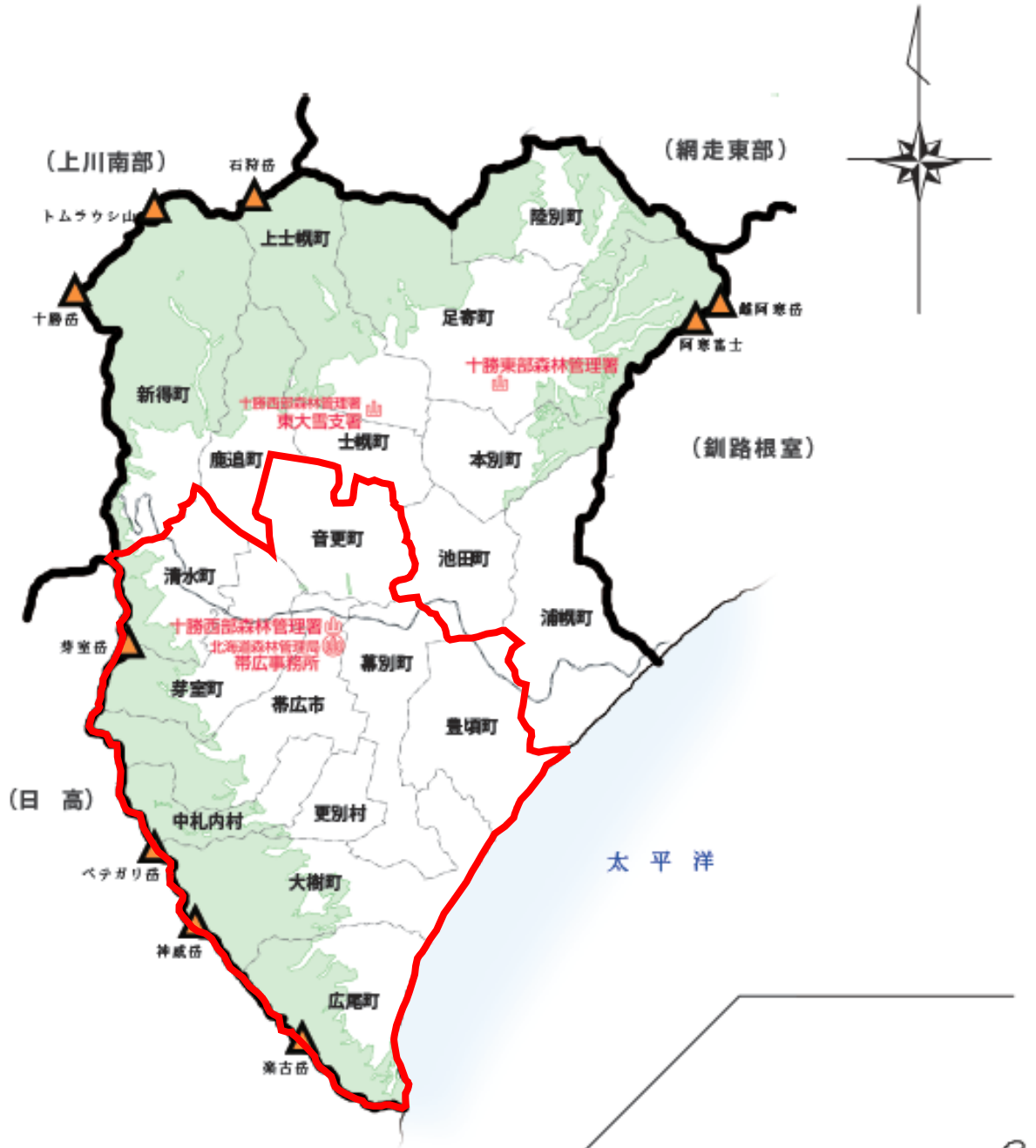
都道府県名：北海道

施行箇所：十勝森林計画区(十勝西部森林管理署)

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	5,172,299	
	流域貯水便益	1,105,586	
	水質浄化便益	2,355,268	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,004,545	
環境保全便益	炭素固定便益	960,662	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	16,458	
	木材利用増進便益	287,678	
	木材生産確保・増進便益	583,770	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	25,491	
	森林整備促進便益	239,795	
総 便 益 (B)		15,751,552	
総 費 用 (C)		4,386,688	千円
費用便益比	$B \div C = \frac{15,751,552}{4,386,688}$		= 3.59

十勝森林計画区的位置図



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森林計画区界	
市 町 村 界	
森林管理署等	/

